

研究支援「都市計画研究会」の採択結果について

2022 年度に公募した研究支援の対象として、以下の一研究会が採択されましたので、お知らせいたします。

■地域資源保存活用研究会

代表：中村昇

研究の課題および目的：

【背景・課題】

地域固有の自然・歴史・文化は、魅力ある地域形成のための重要な地域資源（財産）である。

かつてこれら地域資源の多くは、旧集落のコミュニティにより維持・継承する役割を果たしてきたが、近年の人口減少、少子高齢化等により、旧集落のコミュニティの維持そのものが困難な状況に直面し、地域資源の喪失が地域の大きな課題となっている。

一方、経済成長期には、旧集落の近郊に多くのニュータウン開発事業が展開され、多くの人が移り住むようになったが旧集落のコミュニティとは分断されている場合が多く、地域固有の自然・歴史・文化に触れる機会（きっかけ）が持てず、その結果、地域に対する誇りや愛着を持ってない場合が生じている。

今回の研究で対象とする地域においても、自治体を実施した過年度のアンケート調査等の結果を小学校区別に整理したところ、旧集落辺りでは「担い手がない（継承が困難、保存が困難な状況）」と言った意見、ニュータウン辺りでは「歴史や文化に興味があるが、知るきっかけがない」と言った意見が多く確認された。

これらの課題に対応し、地域資源を維持・継承していくためには、旧集落やニュータウンが新たなネットワーク（コミュニティ）を形成して、地域全体で維持・継承、活用していくことが求められる。

【目的】

本研究においては、地域資源の保存・活用の観点からアプローチし、自然・歴史・文化を対象に、地域全体（旧集落やニュータウンの住民総がかり）で地域資源を共有し、保存・活用するための取り組み方法について、考察することを目的とする。